

平成20年度振興公社

決算報告



6月の定例町議会において(株)津別町振興公社及び(株)相生振興公社の平成20年度決算が報告されました。これらの公社は、町が出資しているもので、地方自治法の規定により事業報告並びに決算書の提出を行うことが義務づけられています。今回、報告があった概要をお知らせします。

津別町振興公社

グレステンスキー事業は、昨年度に引き続き、5月1日～10月31日までの土・日曜日、祝祭日及び夏休み期間中の営業とし、営業日数87日、利用者人数は1488人(前年度1429人)と前年を若干上回る実績となりました。21世紀の森キャンプ場の使用料金徴収業務事業も、昨年度に引き続き、5月1日～10月31日までの毎日営業を行い利用者数(宿泊、日帰りを含む)は2932人(前年度3221人)と前年を大きく下回る実績となりました。要因としては、この間の燃料の高騰等で札幌や網走管外の集客が減ったことが考えられます。公共施設の清掃・管理事業については、日常清掃業務8施設、特

別清掃業務14施設、施設管理業務12施設、公園管理業務8施設、公衆浴場管理業務、と当初の計画通り事業を行ってききました。これら業務を行うにあたり、清掃事業10人、施設管理業務17人、公園管理業務15人、公衆浴場管理業務2人、グレステンスキー場2人、総務3人の計49人の執行体制で業務を行いました。

津別町振興公社 貸借対照表

(平成21年3月31日現在) 単位：千円

資産の部		負債の部	
流動資産	18,535	流動負債	5,007
現金及び預金	12,567	未払金	4,690
未収金	5,633	預り金	111
棚卸資産	327	納税充当金	206
立替金	8	固定負債	241
固定資産	10	退職給与引当金	241
有形固定資産	(0)	負債合計	5,248
工器具備品	0	資本の部	
ソフトウェア	0	資本金	30,000
預託金	0	剰余金	△16,703
減価償却累計額	0	前年度繰越剰余金	△19,492
投資等	(10)	当期末処分利益	2,789
出資金	10	資本合計	13,297
資産合計	18,545	負債・資本合計	18,545

津別町振興公社 損益計算書

単位：千円

収入の部	
清掃管理事業収入	110,894
グレステンスキー事業収入	1,681
事業外収入	251
特別利益	80
収入合計	112,906
支出の部	
清掃管理事業原価	92,028
グレステンスキー事業原価	1,589
一般管理費	16,500
特別損失	0
支出合計	110,117
税引前当期利益	2,789
法人税等充当額	0
当期利益	2,789

相生振興公社



相生物産館と周辺施設は平成15年に「道の駅」に指定されています。

平成12年7月の設立から8シーズン目を迎えた今期は平成15年8月に登録された「道の駅」による収客増を目指してまいりました。

相生振興公社 損益計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで) 単位：千円

収入の部	
店舗販売事業収入	94,856
公共施設管理事業収入	3,692
営業外収入	2,738
収入合計	101,286
支出の部	
店舗販売事業原価	69,246
公共施設管理事業原価	4,650
一般管理費	22,092
営業外費用	27
特別損失	2,625
支出合計	98,640
税引前当期利益	2,646
法人税等充当額	780
当期利益	1,866

相生振興公社 貸借対照表

(平成21年3月31日現在) 単位：千円

資産の部		負債の部	
流動資産	21,866	流動負債	5,843
現金及び預金	8,967	買掛金	2,548
売掛金	79	未払費用	2,416
棚卸資産	7,510	預り金	64
仮払金	88	法人税等充当金	483
未収収益	222	未払い消費税	332
差入保証金	5,000	固定負債	
固定資産	6,825	長期借入金	4,762
有形固定資産	6,750	負債合計	10,605
無形固定資産	75	資本の部	
繰延資産	0	資本金	10,000
繰延資産	0	剰余金	10,486
		前年度繰越剰余金	8,486
		別途積立金	2,000
		自己株式	△2,400
		資本合計	18,086
資産合計	28,691	負債・資本合計	28,691

が、ガソリンの高騰と景気の後退により、大変苦戦をいたしました。公共施設管理事業の部門では、物産館や周辺施設の受託物件は前年同様です。一方、費用面では、極力人件費を抑え、支出面の抑制と効率的な運営を図りながら施設使用料(年間120万円)を支払い、営業を行いました。この結果、税引前当期利益は264万円、法人税などの税額を差し引いた当期純利益は、186万円を計上することができました。

【農産品販売】「相生地域活性化推進協議会・農産部」による緑葉野菜や花卉などの販売は盛況でしたが、課題である冬期間及び、シーズンを通して商品の品薄感をなくすことに引き続き改善を行ってまいります。

また、ビニールハウスを利用したアスパラ栽培は、収穫も順調に推移しているほか、14年度から取りくんだブルーベリーの栽培も、本格的な収穫を目指して移植作業を行いました。引き続き新たな加工品の研究に取り組んでいきます。【そば・豆腐の販売】そばにつきましては、例年通りの生産を行ったと共に、新たな顧客を獲得。豆腐については以前から課題とされていた豆腐製造機械の導入を行いました。今後は、手作りの味、風味等の改良に努め、顧客のニーズに答えられるよう研究を重ねていきます。

【施設の管理委託業務と職員配置】公共施設の管理業務は、職員や管理人による日々の巡回、清掃、草刈りなど環境保全に努めてきました。また職員配置については、そば・豆腐製造販売部門では現行4人体制のほかに平均2人のパート職員を配置、他の部門ではパート職員1人を含む2人で対応しています。